

令和7年度

JRC未来応援プロジェクト指定校活動報告集

青少年赤十字(JRC)では、子どもたち一人一人が「人道」「博愛」の心を大切に、人類の幸せや世界のために尽くせるような人間になるための取組として、『健康・安全』『奉仕』『国際理解・親善』の3つを実践目標として掲げ活動しています。

多くの教育現場においても、上記の実践目標と重なる学校経営や教育実践が進められていることと思います。日本赤十字社岐阜県支部におきましては、それらの活動を支援させていただくとともに、子どもたちがJRCで大切にしていることを身に付けることを目的に、研究推進モニター校等の募集を行い、助成をさせていただきました。

この流れを受け継ぎ、令和5年度からは、以下の趣旨を踏まえ「JRC未来応援プロジェクト」事業を立ち上げ、指定校を選定し実践していただきました。

<事業趣旨>

青少年赤十字では、園児・児童・生徒の皆さんが、地域や世界の人びとの平和や福祉に貢献できるよう、日常生活や学校生活での活動をとおして、いのちと健康を大切に、地域社会や世界のために奉仕し、世界の人びとの友好・親善の精神を育成することを目的とした活動を推進しています。

この目的達成のため「JRC未来応援プロジェクト」活動助成金を交付して、子どもたちが**健康・安全、ボランティア、国際理解、人権尊重の精神、SDGs**に関する様々な体験をとおして「**気づき・考え・実行する**」姿勢を育む活動を応援し、その輪を広げます。

JRC未来応援プロジェクト	① 防災活動 ② 健康安全に関する活動 ③ 奉仕や福祉に関する活動 ④ 国際理解親善活動 ⑤ SDGsに関する活動
---------------	---

今年度のJRC未来応援プロジェクト事業では、35の学校・園を指定し、助成をさせていただきました。各指定校においては、創意・工夫をしながら上記①から⑤について、研究実践を推進していただきました。また、子どもたちが活動する際には「気づき・考え・実行する」という青少年赤十字の態度目標を意識して、人道・博愛の精神を具現化する取組にも努めていただきました。


本報告集では、子どもたちが多くの人と出会い、学び、様々な体験や発見等を通して、豊かな心を育み、たくましく成長していく実践が綴られています。豊かな心とたくましさを身に付けた子どもたちが、これからも人道、博愛の精神をもち続け、様々な場で活躍していくことを願っています。

これらの貴重な実践が、多くの学校において「豊かな心を育む教育活動」推進の一助となれば幸いです。本報告集をまとめるにあたり、貴重な実践や成果をご紹介いただいた指定校の校長先生方、園長先生方にお礼を申し上げますとともに、ご多用の中、報告書のご提出にご協力いただきました先生方に心より感謝を申し上げます。

令和8年4月1日

岐阜県青少年赤十字指導者協議会
日本赤十字社岐阜県支部

※学校名をクリックすると、その学校のページにジャンプします。

各学校の最後にあるをクリックすると、このページに戻ります。

No	学校名	テーマ
1	岐阜市立長良西小学校	いのちかがやく 西っ子 MIRAI's ～はぐくむ・つながる・つたえる～
2	各務原市立蘇原第二小学校	考えよう つなごう 私たちにふるさと
3	恵那市立岩邑中学校	わたしたちのまち「岩村」への感謝を込めて
4	岐阜市立藍川北学園	私たちの地域『藍川』を私たちが守る
5	岐阜女子高等学校	ぎじょ“けんけつちゃん”活動の推進
6	ながもり第二幼稚園	強い心と体をつくって正しい暮らしをめざそう
7	子苑第一幼稚園	『仲間と自分の命を守る大切さを知ろう』 『お年寄りの方に喜んでもらおう大作戦 Part II』
8	子苑第二幼稚園	『じぶんとなかまをたいせつに』Part II
9	桐が丘幼稚園	周りの多様な方々に感謝の気持ちを持ち、思いやりの心を言葉や態度で伝えよう
10	美鳩幼稚園	自分の命は自分で守る「気づき・考え・実行する子」
11	岐阜市立三里小学校	SDGsと“ふるさとぎふ”の未来
12	岐阜市立則武小学校	自ら守る大切な命 ～防災活動を通して～
13	岐阜市立茜部小学校	I like me! 「自分にいいね！」～探究っておもしろい 茜部っておもしろい！～
14	岐阜市立長良東小学校	命を守る訓練「自分の行動を振り返り、よりよい行動を考える」
15	羽島市立正木小学校	スリランカの学校とのオンライン交流を通して、スリランカの自然や歴史、文化などを理解するとともに、日本の自然、歴史、文化を理解する。
16	各務原市立那加第三小学校	全校みんなで、ボランティア掃除に取り組んで、やる気いっぱい、優しいいっぱい、美しいいっぴいの学校をつくろう！
17	各務原市立中央小学校	よさ見つけからお互いを分かり合い、自分と仲間であたたかい学校生活を～年間を通した人権教育の活動を通して～
18	山県市立桜尾小学校	自分の命は自分で守る 自分の健康は自分で守る
19	山県市立伊自良北小学校	私が守る、私たちの伊自良！
20	山県市立いわ桜小学校	ふるさと美山に生きる わたしたちができること
21	大垣市立川並小学校	だれもが安全・安心してらせる共生社会を実現しよう ～よりよいふるさと川並を未来に！～
22	垂井町立合原小学校	私たちが考える「魅力にあふれ、誇りに思ふまちづくり」
23	輪之内町立福東小学校	自分たちができる安心で安全なまちづくりを考えよう
24	郡上市立和良小学校	わたしたちのまちをもっと良くするために ～和良・西和良の宝さがしと未来への提言～
25	美濃加茂市立三和小学校	自分たちができる「安全で住みよいまちづくり」
26	七宗町立神淵小学校	よーくかんがえ、みんなで引き出し合い、できるまでわかるまで努力・実行しながら「うん！？あっそうか！！」の気づきをたくさんにする神淵っ子を育成
27	中津川市立付知北小学校	私たちができる「安心で安全な学校づくり」～防災士さんと取り組む耐震補強～
28	飛騨市立古川小学校	ふるさとに誇りを持ち、自他の尊重を大切に児童の育成 ～「ふるさと&いのち」に基づいた防災教育の充実
29	大垣市立江並中学校	江並中人権宣言を具現化し、誰もが安心・安全に生活できる江並中
30	郡上市立大和中学校	自分も仲間も、家族も地域もすべての人が笑顔になれる大和町のために私たちにできること
31	郡上市立高鷲中学校	地域が誇る高鷲中生 ～高鷲を考え、高鷲で動く～
32	北方町立北学園	パラリンピック選手と交流することを通して、障がい者の活躍の場があることを知り、障がい者に対する理解を深める。
33	大垣市立上石津学園	防災活動 ～一人でも多くの命を守るために私たちにできることは何か～
34	岐阜県立池田高等学校	地域をつなぐ、地域防災の拠点としての池田高校を目指す
35	岐阜県立飛騨高山高等学校 岡本キャンパス	持続可能な高山市を目指して～生まれ育った高山市を次の世代にも継承するために～

令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	岐阜市立長良西小学校 (校長 服部 晃幸)
主な実践内容 (複数可)	① 防災活動 ② 健康安全に関する活動 ③ 奉仕や福祉に関する活動
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間、社会科

1 活動テーマ

いのちがやく 西っ子MIRAI's ~ はぐくむ・つながる・つたえる ~

2 主な活動内容

月	主 な 活 動 内 容
4月	・(全校) キックオフの会：日本赤十字・青少年赤十字の理解等 ・(全校) 引渡し訓練 ・(3年) 3年目のひまわりプロジェクト開始<種まきの会>
5月	・(全校) 交通安全誓いの会 (交通安全協会長良西支部連携) ・(3年) ひまわり栽培に係る加茂農林高校との交流 ・(1年) 交通安全教室 (岐阜北警察署、交通安全協会長良西支部、PTA 連携)
6月	・(希望児童) JRC子ども新聞プロジェクト参加
7月	・(3年) ひまわり開花の会 ・(希望児童) JRCリーダーシップ・トレーニング・センター参加
8月	・(全校) JRC研修会活動報告会
9月	・(4年) 水害から大切な人の命を守るために～過去の水害に学ぶ～ (中部地域づくり協会出前講座)
10月	・(全校) 東日本大震災で被災した方 (旧石巻市立門脇小学校の当時の校長先生と当時の児童・現大学生) による講話 ・(4年) 助産師さんによる「いのちの授業」
11月	・(3年) ひまわりの種を入れるパッケージづくり ・(4年) シートベルトの効果体験 (JAF連携) ・(希望児童) 長良西校区防災フェスティバルへの参加 ・(全校) 青少年赤十字作品コンクール入賞作品の紹介
12月	・(5年) DIG訓練 (長良西自主防災隊連携)
1月	・(全校) 阪神淡路大震災から31年<全校放送>
2月	・(3年) 災害から命を守ることの大切さを伝える活動 <川原町・岐阜公園におけるひまわりの種・花の葉の配布>



3 事業の成果等

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> ・被災地ゆかりのひまわりを栽培し、その種を広める活動を通して、命の尊さに気づき、学んだことを自ら発信する力を高めることができた。 ・外部機関と連携した体験活動を通して、多様な人々とつながり支え合うことの大切さに気づき、互いの絆を深めていこうとする行動力を高めることができた。
今後の方向	<p><「いのち」を核とした防災・福祉・共生に関わる活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度の防災に関わる諸活動に加えて、パラスポーツの理解や外国の方との交流等、「福祉」「共生」に係る探究学習の充実を図る。



令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	各務原市立蘇原第二小学校（校長 太田 桂巳）
主な実践内容 (複数可)	③ 奉仕や福祉に関する活動 ② 健康安全に関する活動
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間 生活科 体育的行事

1 活動テーマ

考えよう つながろう 私たちのふるさと

2 主な活動内容

(1) 地域とのつながりによる「ふるさと教育」の充実

- ・ 1年生 生活科 シニアクラブの方々に教えてもらいながら、昔遊び、凧作りに親しむ
 - ・ 2年生 生活科 蘇原の町を探検し、店舗や施設、そこで働く人々の魅力を知る
 - ・ 3年生 総合的な学習 蘇原地区に伝わるお祭りを学ぶ
 - ・ 4年生 総合的な学習 樹木を中心に、各務原の自然について学ぶ
 - ・ 5年生 総合的な学習 地元企業とコラボし、リメイク商品の開発に挑戦する
 - ・ 6年生 総合的な学習 「みんなに優しいふるさと」をテーマに福祉について学ぶ
- 関係団体との連携 シニアクラブ 社会福祉協議会 地元企業 地元店舗
青少年育成市民会議（通学路見まもり隊） 地域ボランティア

地域のために尽力する人々の思いを知ること、人のために働くことの尊さを学んだ。とりわけ6年生においては福祉をテーマに学習を進め、障がいのある方や高齢の方など社会的弱者に寄り添い、ともに生きることについて学んだ。

(2) 健康・安全に対する意識の啓発

記録的な酷暑となった今年の夏から秋にかけて、屋外遊びや運動会の取組・本番における熱中症対策として、助成金で大型テント2台を購入させていただいた。運動会の当日には多くの地域の方々が来校し、このテントの下で参観しながら児童との交流を深めた。3年生においては「ふるさと学習」の中で地域のシニアクラブとともに制作した祭りのおみこしを、競技の中でシニアクラブの皆さんとともにかつぎ、地域連携を深める良い機会となった。

- ・ 4月 本プロジェクトについて教職員に周知し、年間の計画について共通理解を図った。
- ・ 6月 「キックオフの会」を開催し、赤十字の理念や活動、本プロジェクトについて全校児童に周知した。「学校だより」に本プロジェクトの助成について掲載し、保護者に発信した。
- ・ 9月 青少年赤十字作品コンクールに、4～6年生児童が書写作品を出品した。

3 事業の成果等

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々とのつながりの中で実践する教育活動を通して、地域の人々の思いや願いを知り、ふるさとへの愛着を深めるとともに、よりよいふるさとを創ろうとする意欲を高めることができた。 ・熱中症対策としてテントを活用しながら屋外での活動を行うことで、健康・安全に気を付ける意識を高めることができた。
今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の協力を得ながら本校の特色である「ふるさと教育」をいっそう推進し、児童に付けたい力と活動・評価に一貫性のある指導の在り方を追究する。



令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	恵那市立岩邑中学校 (校長 片桐 宣伸)
主な実践内容 (複数可)	③ 奉仕や福祉に関する活動 (そして感謝を伝える活動) ② 防災体験
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間 学級活動の時間

1 活動テーマ

わたしたちの待ち「岩村」への感謝を込めて

2 主な活動内容

- 5月 キックオフの会の実施
全校に本校がJRCに加盟していること、青年赤十字のこと、JRC未来応援プロジェクトを行なうことについて話した。
- 7月 特別支援学級が地域のイベント(クラフトフェア)に参加
オリジナル商品を販売、岩邑中学校の紹介を実施した。
- 9月 12月 2月 職場体験でお世話になった地域の企業に感謝の気持ちを伝える活動の実施
県立恵那農業高等学校3年生の生徒と2年生がパンジーの寄せ植え作りを実施する。
3月に各企業にお礼を伝えると共に寄せ植えを贈る。
- 11月 親子防災キャンプの実施
岩邑中学校の体育館で、避難所設営、避難所宿泊、炊き出しの体験を実施した。
- 1月 ふるさと学習(温故知新)の発表会での感謝の会の実施
1年間(30時間)お世話になった地域の講師の方へ感謝の気持ちを伝える活動を実施した。
- 2月 地元子ども園の園児と感謝のバルーンリリース
3年生を中心に園児と、地域への感謝、将来の夢などを絵や文でかいたメッセージカードを付けた風船を岩邑中学校グラウンドから飛ばした。
風船とカードは、環境に配慮した自然に還るものを使用した。
- 2月 ありがとう清掃
登校するときに通学路に落ちているゴミ等を拾って、地域をきれいにする活動を実施した。
- 年間を通じて、積極的に地域のイベントやお祭りスタッフ等の多くの生徒がボランティアに参加した。
(今年度は全校のべ約270名:全校生徒135名中)

3 事業の成果等

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生として、地域に自主的、積極的に関わっていかうとする心情の育成 ・ふるさとを愛し、自他を大切にすることの育成 ・感謝の気持ちを伝えることの大切さを体感
今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・3月には閉校となってしまうが、統合された新中学校でも、学校と地域が協働して、情報を提供し、生徒が地域貢献できる場を設定していく。 ・感謝の気持ちを伝えることの価値を語っていく。



令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	岐阜市立藍川北学園 (校長 河合 美佐子)
主な実践内容 (複数可)	① 防災活動
教育課程上の位置付け	行事、学級活動の時間、わかあゆ学 (特別な教育課程)

1 活動テーマ

私たちの地域『藍川』を私たちが守る

2 主な活動内容

- ・自分たちが生活する地域に関わる災害について、様々な災害の危険性や通学路に危険箇所について調査し、異年齢集団による『なかよし下校』において、実際に確認しながら下校した。
- ・公民館と連携して、DIG(災害図上訓練)やHUG(避難所運営ゲーム)、浸水被害疑似体験(VR)等の学習を通して、自分たちが「守られる側」から「守る側」となることへの意識を高めることができた。
- ・全校児童生徒や保護者も参加して、防災活動を行った。発達段階に合わせた防災活動を異年齢集団で体験したり、避難所設営や災害食の準備、応急処置を練習したりするなど、自分たちでできることは自分たちで行うことを意識して学習に取り組むことができた。
- ・防災学習の際、消防署や水防団、赤十字の分団の方々にご協力をいただいた。地域の安全を守るために、さまざまな人たちが活動をしていることを知ることができた。

3 事業の成果等

子供たちに付いた力	地域を自分たちの手で守っていこうという意識を高めることができた。また、災害についての知識を身に付けるだけでなく、災害時でも、自分たちでできることは自分たちで行うという実践力が身に付いた。
今後の方向	それぞれの学年の発達段階に応じた防災学習を進めていくとともに、異学年集団での活動を位置づけ、共に助け合い、自分たちが地域を守っていくという意識をさらに高めていきたい。 また、これまでは、学校で防災学習を実施した後、地域で防災訓練を行っていたが、地域と学校が一体となった防災訓練、防災学習となるよう、より多くの児童生徒が地域の防災訓練に参加できるような実施方法を考える。実際の災害時を想定した学びと実践力を培っていきたい。



令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	松翠学園 岐阜女子高等学校 (校長 折戸 敏仁)
主な実践内容 (複数可)	① 健康安全に関する活動 ② 奉仕や福祉に関する活動 ③ SDGs に関する活動 (目標 No. 3 すべての人に健康と福祉を)
教育課程上の位置付け	特別活動 (委員会活動) 保健体育科目「保健」 地域連携活動 ボランティア活動

1 活動テーマ

ぎじょ“けんけつちゃん”活動の推進



2 主な活動内容

(1) 献血について知る、協力する、呼びかける、広める

科目「保健」の授業において、血液センターの職員から献血制度に関する講義「献血セミナー」を受け、献血に関する知識理解を深めるとともに、献血や協力呼びかけへの意識を高めることができた。献血ルームや献血バスが配車された会場で、定期的に献血をしたり協力の呼びかけを行った。

地域の公民館講座として、小中学生を対象に「集まれ！未来の救命救急士！血液の力！」に本校開催で企画運営に関わった。保健衛生委員や参加希望の生徒が、献血制度、血液の働きや身体の健康について、支部職員から講義を受けた。また、AED の練習装置を使って実習を行った。小学生とその保護者、本校の生徒も、初めて AED の使い方練習を経験する者が多く、真剣に取り組んでいた。

県血液センターによる「献血推進週間」には、食物科の生徒が「けんけつクッキー」を400袋(4つの血液型をイメージした4味入り)製作し、献血ルームで献血協力者に配付したり、献血協力の呼びかけを行ったりして、献血推進活動に取り組んだ。

(2) 地域連携活動、ボランティア活動の活性化

本校では、地域連携やボランティア活動の情報を集約して発信する部署を置いているので、定期的にまたは臨時的であっても、全校生徒が地域とつながって何らかの活動に参加できるよう、継続的に情報提供による支援をしている。今回、本プロジェクトの活動費により、3色3サイズの JRC ポロシャツを揃え、保健室で「貸出して洗濯して返却する」管理を行っている。探究授業のフィールドワークや外部研修会等に参加する際、本校のユニホームとして多くの生徒が何度も着用した。自主的に活動に参加した生徒が、同じユニホームを着用することにより、仲間意識を高め、活動の活性化に役立っている。

3 事業の成果等

子供たちに付いた力	<p>献血の意義や重要性、制度についての理解を深めるとともに、他者への思いやり、優しさ、命の大切さについて、自分ごととしてじっくりと考えることができた。</p> <p>毎週水曜日の放課後、帰宅経路にある献血ルームに寄って、献血呼びかけのボランティア活動に参加している生徒が3人いる。定期的に継続して参加しながら、献血や献血協力の呼びかけの必要性を感じ、自分たちができることを見つけて、やりがいをもって取り組んでおり、日常生活の中にボランティア活動を位置づけている。</p> <p>本校生徒の献血協力者は、運動部に所属している生徒が多く、定期的に献血協力ができることを自身の健康管理上の目標にしている。</p>
今後の方向	<p>本校が永年継続してきた献血協力活動について継続していくとともに地域と連携して、健康安全にかかわる活動を広げていきたい。</p>

令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	上楽学園 ながもり第二幼稚園 (園長 元田 秀人)
主な実践内容 (複数可)	② 健康安全に関する活動
教育課程上の位置付け	領域…「健康」「人間関係」10の姿…「健康な心と体」「協調性」

1 活動テーマ

強い心と体をつくって正しい暮らしをめざそう

2 主な活動内容

(1)四季を楽しむ山登りと仲間との園庭での遊び

今年度、県の助成を受けて岐阜県森林組合のみなさんに山道コースの整備を行っていただいた。安全な山道で1年を通して山登りを楽しんでいる。

午前午後の活動では、外遊びやお部屋遊びを行っている。遊具や砂場での遊びボールや用具を使った遊び、草木の中の虫探しなど、友だちと楽しく遊んでいる。また、夏はプールや長森幼稚園内の川での水遊びなどを楽しんでいる。

1年を通して元気に遊び健康な体と強い心を育む園児の姿が見られた。



▲山道の整備

(2)歯科の健康づくりと交通安全教室

今年度も県立衛生専門学校の看護学科と歯科衛生学科の学生の臨地実習を受け入れた。指導の先生方から、まんがのキャラクターを活用しての歯みがきの仕方を教えていただいた。また、自作の紙芝居を通して、歯磨きの大切さを教えてもらった。

保護者の勤務するトヨタモビリティパーツの出前講座として、ダンボールの車作りと交通安全教室を行っていただいた。ハンドルやタイヤだけでなく、ナンバープレートやウインカーなどの部品もつけた。いろいろな模様を描いて自分たちの車を楽しく作った。前方から来るぬいぐるみがどこから見えなくなるのか知ること、車の前を横切る危険な動きに注意することを学んだ。



▲交通安全

(3)地域との連携～お年寄りの方との交流といもほり活動

長森幼稚園前にある畑での芋ほり体験が4年目を迎えた。5月に苗植えを教してもらい茎の部分を土に斜めにさすことを体験した。葉が茂って土が見えなくなっていく生長の様子を、園児たちはホルールの記録掲示板を通してつかんでいた。

11月4日に長森幼稚園に園バスで移動し、芋ほりの活動を行った。

袋いっぱいに入った大きな芋を抱きかかえ、収穫を喜び合った。「ありがとうの会」では農家のおじさんに、感謝の気持ちを伝えることができた。

12月には岐阜第二老人ホームのお年寄りの方たちとの交流を行った。一緒に手遊びをしたり音楽会の歌を歌ったりして楽しい時間を過ごすことができた。



▲秋のお芋の収穫

3 事業の成果等

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> ・元気いっぱい遊びに夢中になる力がついた。 ・歯磨きや交通安全の大切さが分かり、実践への意欲を高めた。 ・お世話になった地域の人たちに感謝の心をもつことができた。
今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・大人の人たちに教えてもらったり自分たちで考えたりして、健康で安全な生活をしようとする意欲を高める。 ・県立衛生専門学校の臨地実習 (歯科衛生科・看護学科)の継続。

令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	学校法人那加学園 子苑第一幼稚園 (園長 加藤 勝祥)
主な実践内容 (複数可)	①防災教育 ⑤ SDGs に関する活動
教育課程上の位置付け	【防災教育】 1 心身の健康に関する領域「健康安全」 【SDGs】 3 身近な環境との関わりに関する領域「環境」 「環境地域の福祉施設との交流」

1 活動テーマ

『仲間と自分の命を守る大切さを知ろう』

・自分だけでなく仲間とともに命を守る意識を高め、心身の健康安全を第一に判断行動できるようにする。避難訓練や防災研修を通して、危険回避や生命尊重の意義を知り、実践訓練に生かす。

『お年寄りの方に喜んでもらおう大作戦 part2』

・幼稚園の近隣にある老人養護施設の方との交流を通して、老人の方に元気を与えたい。



2 主な活動内容

防災教育 年間8回ほどの避難訓練を活用しながらその都度消防署の方など外部の力も得ながら危機回避や命を守る大切さを学ばせることができた。

SDGs 地域の老人介護施設との交流は2年目となり今年度はもう1か所の施設も「ぜひうちの施設にも来てほしい。」という依頼を受け、3施設から4施設へと拡張できた。昨年はちょうどクリスマスの時期にインフルエンザが流行ったので中止にしたが今年度は2回の実施（七夕交流・クリスマス交流）が出来た。

3 事業の成果等

子供たちに付いた力	【SDGs】子どもたちにお年寄りと接するとき大切なことは何かを教えることができた。また、お年寄りとコミュニケーションをとり方、声のかけ方、返事の仕方なども自然に学ぶことができた。 【防災教育】避難訓練は通常訓練に加え、抜き打ちの訓練、地震単独、地震から火災といった複合的な防災訓練を行うことで子どもたちにも幼いながら『自力』という気持ちを芽生えさせることができた。
今後の方向	【SDGs】 来年度も今年度同様の取り組みをしていきたい。福祉教育の初歩を日本赤十字社もしくは各務原市社会福祉協議会にお願いして『気づき』や『意味・意義』といった基盤部分を育てていきたい。 【安全教育】…『防災教育』に加え『交通安全』も含めて行きたい。方途としては、外部の機関とのつながりを生かし、地域の見守り隊、各務原警察署、各務原市まちづくり推進課の交通安全指導員の方との交流と実地訓練を計画的に行い、交通事故に遭わないよう正しい自己判断の出来る子を小学生になるまでにしっかりと身につけさせたい。



令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	学校法人那加学園 子苑第二幼稚園 (園長 石田 靖彦)
主な実践内容(複数可)	① 防災教育 ⑤ SDGsに関する活動
教育課程上の位置付け	【防災教育】 1心身の健康に関する領域「健康」 2身近な環境との関わりに関する領域「環境」 【SDGs】 3身近な環境との関わりに関する領域「環境」

1 活動テーマ

『じぶんとなかまをたいせつに』 Part II

園の教育目標である『じぶんとなかまをたいせつに』の具現化をめざし、

⇒ 【じぶん】自分の命は自分で守る防災教育の取り組み

⇒ 【なかま】他者への思いやりの心を育てる SDGs の取り組み

2 主な活動内容

【防災教育】毎月の『いのちを守る訓練』⇒ 毎回想定を変えて園児及び教職員にも予告なしのシェイクアウト訓練を実施した。

九州国際大学 准教授 村岡治道 氏による

『自分の命は自分で守る』訓練

⇒ 地震発生時に身を守る知識・技能の習得をすることができた。



【SDGs】栽培・飼育活動 廃材遊び

《栽培》

学年ごとの夏野菜の栽培⇒苗植え・水やり・収穫を体験したり、グリーンカーテンを作ったりして、SDGsについて気づき、考え、実行について学んだ。



《飼育》

様々な生き物とのふれあいを通して時には生命の誕生に立ち会う体験もすることができ、命の大切さについて学んだ。



《廃材遊び》

家庭で廃材を集めて、持参した廃材で工作遊びをすることを通して、資源の再利用について気づき、考え、実行について学んだ。



3 事業の成果等

子供たちに付いた力	【防災】一人一人が『自分の命は⇒自分で守る』という意識が定着し、地震発生時に自分の身を守る知識と技能が身についた。 【SDGs】生き物や他者に対して思いやりの心をもって接することができるようになってきた。 物の大切さや再利用に対する意識が高まってきた。
今後の方向	取り組んできた防災と SDGs の活動を継続・発展させて、意識や実践力を高めていきたい。来年度は異文化共生・国際親善理解の活動にも取り組む。 ↻

令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	中部学院大学・中部学院大学短期大学部附属桐が丘幼稚園 (園長 長屋 メイ子)
主な実践内容 (複数可)	② 健康安全に関する活動 ③ 奉仕や福祉に関する活動 ⑤ SDGs に関する活動 (人や国の不平等<障がい者、高齢者>をなくそう)
教育課程上の位置付け	設定保育の時間

1 活動テーマ

周りの多様な方々に感謝の気持ちをもち、思いやりの心を言葉や態度で伝えよう

2 主な活動内容

・アルケミスト人権コンサート……アルケミストによる人権コンサートを短大と合同開催した。二人組の音楽ユニット。ボーカルのこんやしょうたろうさんは、左手の肘の先が先天的に欠損しているという事実をありのまま話すことで大切なことを伝えた。最後に「あの空」という楽曲を園児と合唱し会場全体が感動に包まれた。

・花の日訪問
・七夕訪問
・敬老の日訪問
・病院訪問
・クリスマス礼拝・祝会

事前の礼拝等で訪問の意義を知ったうえで、自分たちを支えてくださっている方々への感謝の気持ちを、自分たちにできること(歌やダンスなど)で伝える。

3 事業の成果等

子供たちに付いた力	○人の多様性を知り、偏見や差別の心をもたないこと ・人権コンサートは、障がいを有する方も自分たちも何も変わらないことを理屈抜きで感じる事ができた貴重な機会だった。 ＜桐幼だより7号より＞～敬老の日訪問の記事から～ …その中で、年中さんが訪問した「ほほえみ福寿の家」での出来事を紹介しますね。全体で発表をした後、個別に手遊びなどで交流したときのことで。腕を欠損された方と交流した園児が、ごく自然に手を取っていて、帰りのバスの中でその話題が出たとき、その子は「だってアルケミストさんもそうだったでしょ。」と、何の偏見も先入観もない様子だったことを聞いて、すごいなあと感心しました。人それぞれ違って当たり前ですし、「みんなちがって みんないい」ことを園児から教えてもらいました…
今後の方向	・小さいうちから高齢者と触れ合うこと、今後も障がい者の方の話を直接聴く機会をもちたい。



令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	学校法人飛驒学園 美鳩幼稚園 (園長 岩田 昌弘)
主な実践内容 (複数可)	① 災害に対応する活動 ② 健康安全に関する活動
教育課程上の位置付け	保育時間中、業間や昼休み中

1 活動テーマ

自分の命は自分で守る「気づき・考え・実行する子」

2 主な活動内容

- ・4月22日(火) シェイクアウト訓練と避難訓練(地震による火災からの避難)
- ・5月21日(水) キックオフの会(JRC 加盟と赤十字活動の理解)、シェイクアウト訓練、避難訓練
- ・6月25日(水) 火事からの避難訓練<高山消防署の協力>、職員による初期消火訓練
- ・7月9日(水) プールでの安全な遊び方の指導、避難訓練(業間時の地震発生対応)
- ・9月2日(火) 身近な生活での安全意識向上(雨降りの側溝、横断歩道での安全確認)と対応訓練
- ・10月27日(月) 自由時間でのシェイクアウト訓練と避難訓練(抜き打ち訓練)
- ・11月18日(水) 身近な生活での安全意識(連れ去り防止、不審者対応)<県警たんぽぽ班の協力>
- ・12月18日(木) 降雪時の安全意識向上(冬の安全な遊び方、降雪時の危険箇所)と対応訓練
- ・1月28日(水) 降雪・凍結時の安全意識向上(凍結道路の危険性と歩行)と歩行避難訓練<予定>
- ・2月25日(水) シェイクアウト訓練と避難訓練と年間の活動のまとめ(スライド写真)<予定>
- ・3月11日(水) 東日本大震災の教訓と今後起きうる災害の理解(南海トラフ地震)<予定>

3 事業の成果等

子供たちに付いた力	あらかじめ予告した訓練ではなく、園での日常生活場面での避難訓練を行ったことで、臨機応変に考えて行動しようとするようになった。 また不審者対応でも、自分の身を守るための行動を理解して行動できるようになった。
今後の方向	日常に潜む「危険」に柔軟に対応できる力をつける。 避難時における状況変化に対応する力をつけるために、条件を変化させる訓練を行う。



令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	岐阜市立三里小学校 (校長 小栗 剛)
主な実践内容 (複数可)	② 健康安全に関する活動 ③奉仕や福祉に関する活動 ⑤ SDGs に関する活動 (No. 11 住み続けられるまちづくりを)
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間・学級活動の時間

1 活動テーマ

「SDGsと“ふるさとぎふ”の未来」

2 主な活動内容

【4年生】

岐阜市役所環境保全課の協力を得て、校区内を流れる用水路の水質検査を通して、大切な水資源を守るにはどうしたらよいか考える活動を行なった。校区が広いため、学校を中心とした3か所の水質を調べ、結果をもとに自分たちの水の使い方についてアイデアを出し合って検討した。生活排水をなるべく汚さないように、食器の扱い方や洗面台の水の使い方など、実際の家での水の使い方を想起しながら考えることで、私たちの健康に欠かせない水の守り方について学ぶことができた。



【5年生】

防災をテーマとして、地域の防災士などを招いて講話を聞いたり DIG を行ったりした。この活動を通して、災害を今まで以上に「いつ起きてもおかしくないこと」「テレビの向こう側で起きているのではなく、自分たちの身にも簡単に起きること」であることを実感することができた。また、防災の観点から自分たちの安全が様々な人々や制度によって守られていることを知り、全校児童に発信することができた。

【6年生】

植物を継続的に栽培できる土壌にするために、残菜を堆肥化し土に混ぜ込むことを考えて実践した。①家電として販売されているものを購入、②人力と細菌の力で生ゴミを処理するキットの2種類を購入して堆肥にする活動をした。①は乾燥させて砕くことで非常に小さくなり、簡単に堆肥化ができるのに対し、②は毎日生ゴミと分解成分とを混ぜ込む作業が必要であり、時間をかけなければゴミから堆肥にはならないことを子どもたちは理解した。一方で子どもたちは、ゴミの状態では臭いを発生させていたものが、徐々に臭いが減っていき堆肥に変化する過程を目の当たりにしたことで、「自分たちで堆肥を作っている」ことを実感し、保護者や全校の児童に対して、食物を大切にすることや残菜を堆肥化して循環させることは住み続けられるまちづくりの一助になることを伝えていくことができた。



3 事業の成果等

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事象に興味をもち、探究的に学ぶ力 相手意識をもち、自らの学びや知識を工夫して発信する力
今後の方向	活動や取り組みをまとめ、調べたこと・分かったことを発信する力は付いたが、今後は自らが意識をもって実践者として継続できるような活動を仕組んでいきたい。





令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	岐阜市立則武小学校 (校長 遠山 健二)
主な実践内容 (複数可)	① 防災活動
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間、特別活動

1 活動テーマ 自ら守る大切な命～防災活動を通して～

2 主な活動内容

月	活 動 内 容
4 月	命を守る訓練 (火災)
5 月	キックオフの会 5年生学年集会で、JRC 加盟校であることや、赤十字について話を聞き、これから防災について考えていくことを決意することができた。
7 月	命を守る訓練 (シェイクアウト訓練) 南海トラフ地震や、濃尾地震などについて想定される災害の規模について知り、地震についての備えについて考え、準備することができる。
9 月	市内一斉命を守る訓練 (シェイクアウト訓練)
11 月	<p>則武学校 (水防団・則武まちづくり協議会参加) 則武小学校も、昭和 51 年に水害によって床上浸水の被害があったことや、当時の地域の様子を「まちづくり協議会」の方から聞き、身近な災害であることに気づくことができた。また、水防団の方々と土嚢づくりを体験することで、実際の水害時に対応することができるスキルを身につけることができた。</p>  <p>則武地区防災訓練 (則武自治会参加)</p>
1 月	<p>防災体験活動</p>  <p>災害時の時のように、簡易テントを設営して、アルファ化米を活用した炊き出し体験を行った。炊き出しで作ったアルファ化米の試食し、災害時の食事について実際に口にすることができた。</p> <p>命を守る訓練(垂直訓練) 長良川の堤防が決壊したことを想定し、校舎の上階へ避難することを知り、実際に避難することで、洪水時に身を守ることができるようにする。</p>

3 事業の成果等

子供たちに付いた力	自分たちが暮らす則武地域で、かつて洪水があったことや、近い将来起こり得るだろう大地震などの災害についての情報から、身近に起こることである気づくことができた。そして、実際に災害が起きた時には、炊き出しや被害が広がらないように努めるなどのスキルを身につけることができた。
今後の方向	学んだことについて、自らも様々な観点から備えていかねばならないことに気づき、自分の命を守るばかりでなく、家族などの防災活動の実践を通して、より安全な生活への取組につなげていく。



令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	岐阜市立茜部小学校 (校長 南部 浩一)
主な実践内容	① 防災活動 ② 健康安全に関する活動 (人権尊重の精神を養う)
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間、学級活動の時間

1 活動テーマ

【 I like Me! 「自分にいいね！」～探究っておもしろい 茜部っておもしろい！～ 】

2 主な活動内容

4月	・キックオフの会 ・毎月、2回程度、ボランティアによるサポーター下校(1年) ・防災 Day「命を守る訓練(消防署と地域の防災士と連携して)・引き渡し下校」
5月	・通学班会 ・交通安全教室(1・2・3年)
6月	・命を守る訓練(不審者対応訓練) ・高齢者体験(4年) ・ハートフル人権ライブ(高齢者の方の人権) ・連れ去り防止教室(1年)
7月	・車いす体験(4年生) ・ラジオ体操発表会式(茜部まちづくり協議会と連携)
8月	・茜部あんどん祭り(地域の伝統的な祭り)
9月	・命を守る訓練(震度6以上の地震が起きたら) ・HUG 訓練(6年) ・通学班長会
10月	・通学班会(通学路の危険個所について)
11月	・茜部地区防災訓練(少年消防クラブ員、5・6年の希望者他、茜部小校区の児童が参加)
12月	・夢を語る会(人権意識を高める集会) ・助産師さんによるキャリア講話(4年)
1月	・命を守る訓練(通学路で災害が起こったら) ・薬物乱用防止教室(6年)
2月	・交通安全教室(6年) ・10歳を祝う会(4年)
3月	・地域サポーターへの感謝の会 ・通学班長引継ぎ会 ・通学班会



命を守る訓練



夢を語る会



防災 Day

3 事業の成果等

子供たちに付いた力	<p>・防災活動では、「考える防災」をテーマに据え、従来の指示待ち型訓練を脱却し、主体的な避難行動を促す実践を展開した。多様な災害シナリオを提示し、「命を守るために自らどう判断し、行動するか」を問う訓練を年間4回実施。回を重ねるごとに、状況を的確に想像し、避難を「自分事」として捉えて行動しようとする意識の向上が見られた。</p> <p>・人権尊重の精神を養う取り組みでは、子どもや女性、障がい者、高齢者などの人権課題を学ぶことで、相手を正しく知ることが尊重への第一歩であるという認識を深めた。誰もが大切にされるために自分ができることを考え、相手の立場に寄り添い、自他を共に大切にしようとする心情を養うことができた。</p>
今後の方向	<p>・防災活動を通じて、自ら主体的に行動することの重要性を再認識した。今後は、学校内での活動にとどまらず、家庭や地域とも密接に連携し、茜部校区全体を見据えた防災教育に取り組んでいきたい。</p>



令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	岐阜市立長良東小学校 (校長 中村 有希)
主な実践内容	① 防災活動
教育課程上の位置付け	学校行事、学級活動の時間

1 活動テーマ

命を守る訓練「自分の行動を振り返り、よりよい行動を考える」

命を守る訓練を通して、児童が自らの命を守るために必要な行動に気付き、どのような心構えや行動をするとよいかを考え、訓練時に速やかに避難したり、臨機応変に行動したりする力を養うことをねらいとする。

2 主な活動内容

- 第1回「地震後火災（4月）」 …シェイクアウト、避難経路の確認
- 第2回「大雨・洪水後浸水（5月）」 …保護者への引き渡し訓練
- 第3回「不審者対応（7月）」 …連絡、避難指示、制圧の行動の確認
- 第4回「地震後火災（9月）」 …放送機器使用不可時の安全確認、避難の仕方の確認
- 第5回「室内避難（12月）」 …安全確保場所として教室内への避難
- 第6回「周知なし訓練（2月）」 …授業外（昼休み）での訓練、放送指示に従い避難
- 第7回「通報訓練（3月）」 …地震後火災、外部（消防署）からの評価

【重点】

- ① 緊急放送や諸連絡等を静かに聞き、状況を把握し、適切に非難をすることができる。
- ② 避難経路を知り、状況を正しく判断し、速やかに非難をすることができる。
- ③ 想定されること（特別教室からの出火、校舎の崩落、浸水など）への対処の仕方を知り、安全に非難することができる。
- ④ 職員が連携（児童の誘導や安全確認、初期消火、機器操作など）をはかり、迅速に避難させることができる。

3 事業の成果等

子供たちに付いた力	自分の命を守る判断力、情報を聞き取る力、訓練を自分事として考える力
今後の方向	<ol style="list-style-type: none"> ① 「形」よりも「意味」を伝える訓練に <ul style="list-style-type: none"> ・何故頭を守るのか。 ・何故話することが駄目なのか。 ・何故グラウンドに避難するのか。グラウンドに避難しないときはどのような場合か。 ② 年齢に応じて「考えさせる比重」を増やす <ul style="list-style-type: none"> ・低学年…まずは行動を覚える ・中学年…理由を理解する ・高学年…自分で判断、提案をする <p>「今日の訓練で改善すべき点は？」自分事として捉える機会、場の設定</p>



令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	羽島市立立正木小学校 (校長 花村 伸二)
主な実践内容 (複数可)	④ 国際交流 スリランカの学校とのオンライン交流
教育課程上の位置付け	外国語科

1 活動テーマ

スリランカの学校とのオンライン交流を通して、スリランカの自然や歴史、文化などを理解するとともに、日本の自然、歴史、文化を理解する。

2 主な活動内容

相手校 Sigiriya Central School シギリヤ中央学校

スリランカの中部州にある学校で、生徒数は780人(男子395人、女子385人)が在籍している。本校のALTがスリランカ出身であることから、紹介を受けてオンライン交流をしている。3年目

- 交流 1時間(45分間) 令和7年11月27日、令和8年1月26日、28日
- ・ Introduction 自己紹介 あいさつ、学校名、学年、学級をお互いに紹介する
 - ・ This is me 好きなもの、趣味、好きな教科、誕生日などを紹介する。
 - ・ Welcome to Japan / Sri Lanka 日本の紹介、スリランカの紹介
 - ・ My day 一日の紹介、何時に起きて、何時に寝るなど
 - ・ Quiz Gesture time 日本で一番高い山は? この動きの動物は? など
 - ・ Performance time 歌や踊りの紹介
 - ・ Comments and final greeting お礼のあいさつ

3 事業の成果等

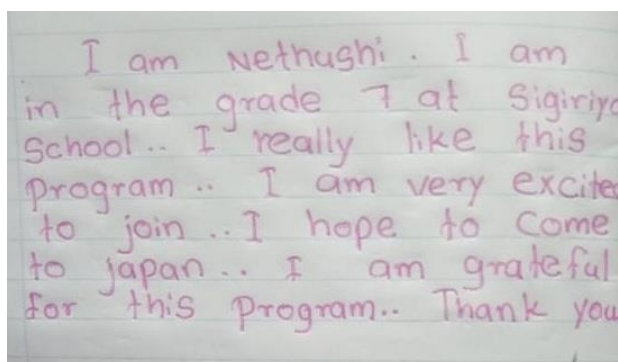
子供たちに付いた力	スリランカではゾウがよくみられるなど、スリランカは日本と違うことを理解する力、国によって自然や文化が異なることを理解する力
今後の方向	同校とのオンライン交流が3年目を終えた。今後も同校との連携を深めるとともに、外国語科の位置づけで、国際理解教育を推進する。

オンライン交流



テレビ画面の中に映っているのが、スリランカの学校の子どもたち(上)

オンライン交流後に寄せられた、ネトウシさんからの手紙(下)



令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	各務原市立那加第三小学校 （校長 加藤 浩幸）
主な実践内容 (複数可)	③ 奉仕や福祉に関する活動 奉仕活動に取り組むことを通してボランティアの心を高め、全校のボランティア意識の高揚を図る。
教育課程上の位置付け	教科時間外の課外活動(朝活動、業間休み、昼休み)

1 活動テーマ

「全校みんなで、那加第三小学校のボランティア掃除に取り組んで、やる気いっぱい、優しさいっぱい、美しさいっぱいの学校をつくろう！」

2 主な活動内容

月	主 な 活 動 内 容
4 月	校庭のそうじなどの愛校当番を通して、6年生自身の愛校意識が高めた
5 月	掃除ボランティアに継続して取り組んだ感想を、6年生が放送で全校に発信した。
6 月	6年生が、全校に呼びかけて、床みがきやごみ拾いボランティアを実行する。
7 月	草取りボランティアを行う予定であったが、暑さのため校内の美化活動に変更した。
8 月	家庭ボランティアに取り組み、児童は保護者と共に、PTA親子奉仕活動に参加した。
9 月	全校ボランティアの実施を呼びかける。(床みがきボランティア)
10月	運動委員会から、全校ボランティアの実施を呼びかけた。(運動場の石拾いボランティア)
11月	美化委員会から、全校ボランティアの実施を呼びかけた。(落ち葉集めボランティア)
12月	美化委員会から、全校ボランティアの実施を呼びかける。(落ち葉集めボランティア)
1 月	運動場の清掃活動。ボランティア用のリヤカーや二輪車コンテナ活用。
2 月	学級、学年で、掃除ボランティアに取り組む。
3 月	学級、学年で、掃除ボランティアに取り組む。

3 事業の成果等

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> ① 高学年を中心に、掃除ボランティアを全校に呼びかける力がついた。 ② 高学年からよい影響を受け、4年生がそうじ隊を結成し、自主的にそうじボランティアをするようになった。 ③ 全校の児童が、ボランティア参加を通して、他に貢献する、奉仕の姿を見出すことができた。 ④ 呼びかけがなくとも、自主的にそうじする姿が、校内で標準的なものとなった。
今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> ① 高学年がリードして、奉仕活動に取り組むことが定着したので、6年生を送る会を通して、ボランティア意識の引継ぎを行う。 ② いっそうボランティアの心を高め、全校のボランティア意識の高揚を図る。



令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	各務原市立中央小学校（校長 吉田 英太郎）
主な実践内容 （複数可）	② 健康安全に関する活動 ⑤SDGsに関する活動 （目標 No.4 質の高い教育をみんなに）
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間、学級活動、朝の会・帰りの会

1 活動テーマ

よさ見つけからお互いを分かり合い、自分と仲間であたたかい学校生活を
～年間を通した人権教育の活動を通して～

2 主な活動内容

- (1) オリエンテーション（キックオフの会を兼ねた児童朝会）
 - ・児童会スローガンおよび「ひびきあいあさがお」活動について話を聞いた。
- (2) 各学級で人権に関わる授業の実践
 - ・道徳の授業で、「ふわふわ言葉・ちくちく言葉」について考える授業を行った。
- (3) 「ひびきあいあさがお」活動の見通し
 - ・「あさがお思いやりこみち」を紹介し、各学級の取組が積み上げられていくことを伝えた。
 - ・各学級で「あさがお思いやり言葉宣言」を考え、全校に紹介した。（掲示と校内放送）
- (4) 第1回「ひびきあいあさがお」活動
 - ・各学級の言葉宣言を受けて取り組んだ各学級の仲間のよいところ見つけを「ひびきあいあさがお」の「種カード」として掲示し、全校に紹介した。（校内放送）
- (5) 第2回「ひびきあいあさがお」活動
 - ・運動会における仲間のよいところ見つけを「ひびきあいあさがお」の「葉カード」として飾り付け、掲示した仲間のよさを、全校に紹介した。（掲示と校内放送）
- (6) 「ひびきあい全校集会」
 - ・全校集会において、校長が人権をテーマにして話をした。
 - ・「ひびきあいの日」に、人権について考える「ひびきあい道徳」の授業を各学級で行った。
 - ・各学級で「あさがお思いやり行動宣言」を考え、全校に紹介した。（掲示と校内放送）
- (7) 第3回「ひびきあいあさがお」活動
 - ・行動宣言に基づいて各学級で取り組んだよいところ見つけを「ひびきあいあさがお」の「花カード」として飾り付け、全校に紹介した。（掲示と校内放送）
 - ・行動宣言に基づいて各学級で取り組んだ内容を児童集会で発表し、成果を価値づけた。た。
- (8) 第4回「ひびきあいあさがお」活動
 - ・6年生を送る会における仲間のよいところ見つけを、次年度へつなぐ「ひびきあいあさがお」の「種カード」として飾り付け、高まった自分や仲間の成長を振り返った。

3 事業の成果等

子供たちに付いた力	「ひびきあいあさがお」活動として「よさ見つけ」と「見つけたよさの共有」を年間通して行ったことで、他者に温かい気持ちで接する気持ちが高まった。
今後の方向	他者に自分の考えを表現する力や、他者の思いを理解する力を必要としている。児童どうしの仲間関係をより高め合うため、今後も継続して行っていく。



令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	山県市立桜尾小学校 (校長 鬼頭 都)
主な実践内容 (複数可)	① 防災活動 ② 健康安全に関する活動
教育課程上の位置付け	学級活動の時間 道徳 (生命尊重) 保健体育

1 活動テーマ

自分の命は自分で守る 自分の健康は自分で守る

2 主な活動内容

- ① 「身につくまで繰り返す」を1つの目標にして定期的・継続的な命を守る訓練を実施した。4月は地震による火災発生想定訓練を行った。初期消火時に使用する消火器(訓練では水消火器を借用)の使い方を全児童が体験することができた。4月下旬には交通安全教室を行った。山県警察署の方を招いて、信号機のある交差点などをグラウンドに設営した。全児童が自転車に乗って、「止まれ」「左右確認」の意味と共に必要性を学んだ。壁を立てることで視角が悪い箇所を作り、子ども達にどのように動くことが安全なのかを考えさせた。5月山県消防署の方を招いて、救命救急講習を実施した。高学年の児童は、ダミー人形が相手であったが、心臓マッサージを真剣に行ったりAEDの使い方をしっかり聴いたりして、自分ごととして取り組んだ。5月末には危険予知トレーニング(KYT)を、1～6年生を混ぜた縦割りの班で行った。校内に潜む危険箇所を子ども達が話し合い、実際に現場に行きどんな危険が考えられるのかを考えた。その後、全校が集合して自分たちが考えた危険箇所や危険行為を交流し、安全な過ごし方をしようと確認した。6月は不審者対応の命を守る訓練を実施した。警察官OBの方に不審者役をしていただき、怒声が響くリアルな会となった。怖がる児童もいたが、非常時に自分たちがどんな行動をするべきなのかを考える好機となった。7月中旬には、大雨による水災害に関する講話を聞いた。自分たちが住む場所で、かつて大きな水害が起きたことを知り、命を守るためにいつ・どこへ避難するのかを考えた。9月1日の防災の日にはシェイクアウト訓練を行った。地震が揺れ始めた時に「取るべき3つの行動」を確認した。11月には告知なしの命を守る訓練を敢行した。これまでの訓練では、教師の指示に従っていた児童が自分で考えて行動しなくてはいけない場面をあえて設定した。
- ② 「歯の学校」として学校歯科医と歯科衛生士、管理栄養士と綿密な連絡を取って歯科指導を行った。年2回の歯科検診に加え、管理栄養士を招き、「歯に良いおやつ悪いおやつ」について授業をしていただいた。11月には歯科衛生士がブラッシング指導を全学年に行った。試験薬を歯に付けて磨き残しに見える化した活動では、口内の様子を写真で撮影し、有効な歯みがきの仕方について学んだ。歯科検診の結果を受け、歯肉炎の児童に対して、歯科衛生士の方から個々にハイリスクアプローチをしていただいた。委員会の児童による歯みがきチェックでは、児童同士で歯の磨き方を教え合う活動を行った。
心を耕す学習も行った。11月には親子講演会で、「人のいい所」を見つけ、ほめる。」人はほめて伸ばす！」といった内容で、周りの人とワークを交えながら話を聴いた。元気なあいさつや全力の笑顔で、お互いを認め合うことが心と体の健康につながることを学んだ。

3 事業の成果等

子供たちに付いた力	10月のある日に行政無線から大地震の訓練放送が流れた。ちょうど休み時間であったが、グラウンドでは身をかがめじっとして動かないシェイクアウトを実践する児童が多く見られた。また、児童から取ったアンケートの中で「自分の命を自分で守ろうと思っている」が全ての項目の中で一番高い評価であった。意識が高まってきている証拠だと感じている。
今後の方向	① 命を守るスキルを高めていくために、訓練のあり方も工夫していく。 ② いろいろな分野の専門家の方から話を聴く機会を設ける。 ③ 親子で一緒に考えられるよう参加型・参観型の会を増やしていく。

スポットクーラー利用の様子

大変暑い夏であったため、体育館もかなりの温度になっていた。買わせていただいたスポットクーラーが体育の授業の合間や休み時間に子ども達の体を冷やすのに活躍した。



令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	山縣市立伊自良北小学校 (校長 中村 裕美子)
主な実践内容	① 防災・減災 活動
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間、生活科

1 活動テーマ

私が守る、私たちの伊自良！

2 主な活動内容

今回の学習テーマでは、まず自分が率先して動くという実践力をつけること、そしてどんな場でもそれを堂々と発信することとした。

そこで、防災という題材をつかって課題をもって自ら動くこと、さらに学校外でも堂々と発信する力をねらった。

1学期は主に学校で高学年が中心となって、有事の際に自分たちがどのような意識でどう動けばよいのかを考えた。防災テント設営では3つの異学年集団に分かれ、一つのテントを設営した。1チーム10名足らずだが、高学年が低学年の児童でもできる役割を指示し、全員が何かしらの役割をもって活動することができた。また、通学路の危険箇所の調査では、普段何も考えずに登下校している通学路の危険を視点にもった見直しで、大人が気づかない箇所に目を向けることができた。

2学期では、家庭における防災意識を高めるために保護者にアンケートや備蓄品の紹介をすることで、家庭での防災について話し合いをする場を設定し、夏休みを通して自らの家庭の防災環境を知ることにつながった。本校の家庭では70%を超える防災備蓄を家庭でしながらも、備蓄品に対する新しい知識の獲得により家庭での新たな防災の備えを行い、それをきっかけに子を巻き込んだ話し合いができた家庭があった。

10月には防災学習として岐阜地方気象台の見学を行った。気象が予報されるメカニズムを知り、毎日何気なく見ている「降水確率」や警報・注意報が発令される仕組みなどを知った。ここでも3つの異学年集団に分かれて説明を聞き、高学年の児童がグループを引率し、それぞれの場所で話を聞く中で、低学年の見学の様子を見届ける姿があった。

2学期後半からは学んだことを活かし、自分たちの1年間の学びを振り返り、その様子を学習発表会の場で伝えた。

3 事業の成果等

子供たちに付いた力	学びを通して、自らが獲得してきたことに自信をもつことができた。それは、自らが課題意識をもつことで、役割を自覚し、組織を利用して動くことによさと難しさを知ることができたからである。課題に対して、自らが動き、ある程度の結果を得ることが出来たことには大きな達成感はある。ただし、その中でいろんな意見が交錯し、解決どころか対立をする場面もみられた。ただ、この対立こそが大切な気づきであるととらえる。
今後の方向	少人数であるがゆえ、常に誰かの声によって何の疑問ももたずに問題解決がなされていた今までは違い、一人一人が意思をもつことで、より問題の解決の方法が複雑になってくる。今後、子どもたちは、さらに大きな集団の中に身を委ねたとき、さらに最適解を導くことが難しくなってくるという現実が待っているかもしれない。 数名の中の誰かの意見で物事が運ぶスムーズさよりも、誰もが意思をもち、集団の最善の答えを見つけようとする立ち止まりにこそ、値打ちがあることに目を向けさせていきたい。来年度は、こうした多様性を認めた上で、何を目指すのかという姿勢を大切に指導していきたい。



令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	山県市立いわ桜小学校 (校長 若井 真由美)
主な実践内容 (複数可)	⑤ SDGs に関する活動
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間 および 学級活動

1 活動テーマ

ふるさと美山に生きる わたしたちができること

2 主な活動内容

(1) イワザクラの観察と栽培

本校では、校名にもなっており環境省レッドリストの準絶滅危惧指定にもなっているイワザクラの見学と栽培を行っている。地域講師の星屋さんの指導のもと、4月に全校児童でイワザクラの群生地に出かけて観察をしたり、秋には少し大きくなったイワザクラの植え替えをしたり、新しい種をまいたりしている。星屋さんからは、イワザクラがとても貴重な植物であることや、限られた地域でしか生息できない植物であることを学んだ。児童は、春にきれいな花を咲かせるために、毎日水やりなどの世話をしている。



(2) 葛原太鼓

クラブ活動の時間には、葛原太鼓を全校児童で行っている。葛原太鼓は、葛原地区に古くから伝わるもので市の無形民俗文化財になっている。地域講師の3名の方には、速さやリズムの手本を見せていただきながら、児童へのアドバイスもたくさんしていただいた。11月には、地域公民館との共催行事である「ふるさと祭り」で、保護者や地域の方々に披露した。また、12月には、伊自良の伝統芸能である伊自良十六拍子を練習している伊自良北小学校や伊自良南小学校との交流も行った。



(3) いわなかクエスト

本校では、毎月1回「いわなかデー」として、終日異学年学級での学習を行っている。そして、その中の一つとして、異学年集団でのふるさと探究学習「いわなかクエスト」を実施している。1年生から6年生までの児童が3つのいわなか学級に分かれて、それぞれ「美山の人」、「美山の山」、「美山の川」について課題追究学習を行った。「美山の川」について学ぶ学級では、美山漁業協同組合の田中さんを講師とし、武儀川の上流を会場として、川にすむ生き物や地形などについて教えていただいた。また、アマゴの飼育についてもアドバイスをいただいております。3月には育ったアマゴを川に放流する予定である。2月には、ふるさと探究学習報告会を開き、3つそれぞれの学級が追究してきた学びを発表する。



3 事業の成果等

子供たちに付いた力	児童が自分たちのふるさと美山の素晴らしさに気づき、ふるさとのために自分たちでできることを考えて実践していこうとする力
今後の方向	今年度の活動をさらに発展させ、地域人材を活用したふるさと教育を充実させていく。



令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	大垣市立川並小学校 (校長 戸田 雅代)
主な実践内容 (複数可)	③ 奉仕や福祉に関する活動 ① 防災活動 ② 健康安全に関する活動 ⑤ SDGsに関する活動 (No3. すべての人に健康と福祉を No11. 住み続けられるまちづくりを)
教育課程上の位置付け	各教科 (家庭科や保健体育)、特別活動、総合的な学習の時間

1 活動テーマ

だれもが安全・安心してらせる共生社会を実現しよう～よりよいふるさと川並を未来に！～

2 主な活動内容

月	主 な 活 動 内 容 等
6 月	・キックオフの会 ・校区の用水路水質調査【SDGs(No11)】 ・SOS の出し方教室【健康・安全】
9 月	・シェイクアウト訓練【防災】 ・薬物乱用防止教室【健康・安全】
10月	・花の苗上(花育)【奉仕・福祉 SDGs(No3)】
11月	・SOSの出し方教室【健康・安全】 ・お年寄りを囲む会【福祉 SDGs(No3)】
12月	・ホタルの幼虫の放流【SDGs(No11)】
1 月	・命を守る訓練【防災】 ・視覚障がいのある方の話を聞こう【SDGs(No3)】
2 月	・シイタケの菌打ち体験【奉仕】 ・6年生を送る会【奉仕】

3 事業の成果等

子供たちに付いた力	<p>社会の課題に気付き、課題意識をもって自ら課題解決のための情報を集めたり、整理したりして解決の方法を考え、表現する力が高まった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者や施設に対して自らが育てた花を贈ることで、他者を思いやるあたたかい心が育った。 ・障がいの疑似体験を通して、様々な日常生活の不便に気付くことができた。 ・地域の水質を調べる活動を通して、身近な環境問題に気付き、自分にできる環境保全をしていきたいという心情を養うことができた。
今後の方向	<p>共生社会の実現に向けて、社会に対する課題意識をさらにもって、当事者意識をもって主体的に課題解決のために、情報を集め整理分析したり、よりよい解決策を考えたり、表現・発信したりして、社会参画する力を身に付けられるように実践を深めていきたい。</p>



令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	垂井町立合原小学校 (校長 中上 敦士)
主な実践内容 (複数可)	③ 奉仕や福祉に関する活動 ⑤ SDGsに関する活動(目標№11 住み続けられるまちづくりを)
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間、生活科の時間

1 活動テーマ

『私たちが考える「魅力にあふれ、誇りに思うまちづくり」』

2年生「栗原の素敵なところを見つけよう」

3・4年生「栗原の〇〇名人」

5・6年生「栗原の農業」

2 主な活動内容

2年生

- ・栗原地区にある施設やお店を見学し、施設の成り立ちや働く人の思いを知る。
- ・自分で見つけた栗原の素敵なところをまとめる。
- ・素敵なところをカルタにして、他の学年の児童に紹介する。

3・4年生

- ・栗原地区に住む名人を探す。
- ・名人から話を聞き、名人の生き方を学ぶ。
- ・名人から教えていただきながら作品づくりをする。

5・6年生「栗原の農業」

- ・田植えや稲刈りの体験を通して米作りの面白さや大変さを知る。
- ・栗原地区の今後の農業について、考え、提案する。

3 事業の成果等

子供たちに付いた力	自分の住む地域のよさに気づく力 地域の未来について考える力
今後の方向	課題を自分事としてとらえ、解決する方法を考え、実践する力を高めたい

- ・地域の方の生の声を聞いたり、実際に体験したりすることで、地域に生きる人の思いを感じることができた。
- ・iPadを活用し、自分たちで撮影した動画や写真を記録した。それを見ることで、体験したことを思い返しながら、次の学習に活かすことができた。
- ・iPadに記録した豊富な資料を用いて、仲間や他学年に学習したことを分かりやすく伝えることができた。
- ・本校は複式学級のため、総合的な学習のカリキュラムは隔年で実施する。来年度、3・4年生は「地域の環境について」5・6年生は「福祉」について学ぶ予定である。



令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	輪之内町立福東小学校 (校長 吉田 稔)
主な実践内容 (複数可)	① 防災活動 ③奉仕や福祉に関する活動 ⑤ SDGs に関する活動
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間 学級活動の時間

1 活動テーマ

○自分たちができる安全で安心なまちづくりを考えよう

2 主な活動内容

【4, 5年生】

「能登半島地震・被災地支援の体験講話から学ぶ」
輪之内町役場総務危機管理課の方から話を聞き、実際の避難所設営に係る体験を通して、自分にできることを考える出前講座を実施した。児童は、もし自分たちが被災した時は、自分たちがトイレやベッドを進んで作りたいという意欲をもち、防災意識を高めることができた。



段ボールベッドを組み立てる児童

簡易トイレの作り方を学ぶ児童

【4年生】

「カワガラウォッチングで学ぶ」

岐阜県環境管理技術センター出前講座でカワガラウォッチング等の調査活動を行った。そこに棲む生物を探す体験を通して自然の大切さを知り、また、水の中にいる生物を調べることで、水質判定ができることから、美しい環境を守る大切さを学んだ。



川の生き物を探す児童



水質判定をする児童

【全校】

「ありがとうの会」

お世話になった地域の見守り隊の方々、クラブの先生、校区探検先の方々などに、6年生の児童が作った「メッセージメダル」と鉢花を、感謝の言葉とともに直接渡した。地域の方々の支えで、安心して生活や学習が進められることに感謝の気持ちをもち、伝えることができた。



地域の方にお礼を伝える児童

3 事業の成果等

子供たちに付いた力	<p>【防災】避難所の状態を体験し、防災意識が高まった。</p> <p>【奉仕や福祉】私たちが支えてくださるすべての人へ感謝の気持ちをもつことができた。</p> <p>【SDGs】身近な環境から自然の大切さを学び、命を大切にすることを学んだ。</p>
今後の方向	今年度取り組んだ活動を継続させて、さらに意識や実践力を高める。

令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	郡上市立和良小学校 (校長 河合 和之)
主な実践内容 (複数可)	⑤ SDG sに関する活動 (目標 No.11 持続可能な都市) ③ 奉仕や福祉に関する活動
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間 特別活動 (児童会活動)

1 活動テーマ

わたしたちのまちをもっと良くするために

～和良・西和良の宝さがしと未来への提言～

2 主な活動内容

【全校共通】

- ・シバザクラブプロジェクト (SBP) 地域の方と協働して育苗・植栽を通年で実施
- ・キックオフ集会 (4月) JRC加盟や赤十字活動の紹介

【3・4年生】

- ・郷土の歴史・文化学習 (4月)
- ・鮎の学習: 調査・放流・塩焼き体験・新聞づくり・地域のお祭りで発表
- ・しいたけ植菌体験 (1月)

【5年生】

- ・川と森の学習: 水質調査、カワゲラ観察、砂防ダム学習
- ・自然体験: ホテル観賞、オオサンショウウオ観察、林業体験
- ・発表活動: 他学年や他校へ自然環境の魅力を発信

【6年生】

- ・長寿日本一の秘密探究: 学校医・診療所による講話、地域医療学習
- ・福祉体験: 高齢者施設訪問・体験
- ・シン・郡上学まとめ (2月) 学習成果を整理し、未来への提言を考える

3 事業の成果等

子供たちに付いた力	<p>①地域を愛し誇りをもつ力 歴史・文化・自然に触れ、郷土への愛着と誇りを育んだ。</p> <p>②課題を探究し表現する力 調査・観察・発表を通じて、問いを立て、まとめ、伝える力を身につけた。</p> <p>③協働し思いやりをもつ力 地域の方や福祉体験を通じて、協力する姿勢と他者への共感を養った。</p>
今後の方向	<p>①地域との協働の深化 地域団体や住民と連携し、子どもたちが地域の担い手として成長する基盤をつくる。</p> <p>②探究活動の充実 調査・観察・発表を体系化し、科学的思考力や主体的な学びをさらに伸ばす。</p> <p>③持続可能な社会づくりへの参画 SDG sの視点を活動全体に取り入れ、未来への提言を具体的な行動へつなげる。</p>



令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	美濃加茂市立三和小学校 (校長 遠藤 美和)
主な実践内容 (複数可)	① 防災活動 ③ 奉仕や福祉に関する活動 ⑤ SDGs に関する活動
教育課程上の位置付け	総合的な学習、学級活動の時間

1 活動テーマ

自分たちができる「安全で住みよいまちづくり」

2 主な活動内容

【4月】	<ul style="list-style-type: none"> ○キックオフの会(全校集会で本校がJRCに加盟していることや赤十字等について学んだ) ○安全な登下校(通学班ごとに子ども110番の家の確認とお願いをしながら、通学路の危険箇所を確認した) ○命を守る訓練【地震・火災訓練】(地震や火災の避難の仕方の確認をし、安全に避難場所に避難した) ○ほたるの会【川掃除】(ほたるの幼虫を放流し、周辺の川掃除を保護者と一緒に行った) 	
【5月】	○命を守る訓練【Jアラート訓練】(市の放送から自分の身を守る行動をとった)	
【6月】	<ul style="list-style-type: none"> ○命を守る訓練【垂直避難訓練】(川の増水で最上階の音楽室へ避難した) ○救命救急講習会 5,6年(心肺蘇生の仕方を身につけた) ○「カワゲラウォッチング」3,4年(川の生き物調べを行い、川的环境を学んだ) 	
【7月】	<ul style="list-style-type: none"> ○DIGの実地・指導 5,6年生(学校周辺のハザードマップよりどの自然災害が起こるのか知り、自分たちの命や地域の人を助けるために何をすべきか考えた) ○カワニナ養殖所の清掃活動 希望者(地域の人と一緒にカワニナ養殖所の清掃活動を行った) 	
【8月】	○親子環境整備作業【窓の耐震シート張り】(親子で学校の窓にガラスの飛散防止シートを張る体験をした。)	
【9月】	<ul style="list-style-type: none"> ○命を守る訓練【シェイクアウト訓練】(下校時、児童玄関を通る際に緊急地震速報により、窓から離れるなど自分の身を守る避難をした) ○地域防災訓練【避難所設営訓練】希望者(消防署の方から防災についての話を聞き、消火体験をした) 	
【11月】	<ul style="list-style-type: none"> ○命を守る訓練【ショート訓練(緊急地震速報)】(地域の緊急地震速報に合わせてシェイクアウト訓練をした) ○ふるさと祭り【炊き出し体験】保護者と一緒に、防災用のハンソリを使って、豚汁を作る体験をした) 	
【1月】	○命を守る訓練【火災訓練】(火災が起こったときの避難の仕方を学び、消火器の使い方を学んだ)	
【2月】	○防災教室(市防災課の方による避難所の設営体験学習をした)	

3 事業の成果等

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なところに危険箇所があることを知り、それに対して備える力 ・災害が起こった時の行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する力 ・災害が起こった時、大人と協力して行動していく力
今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な状況を想定した避難訓練等を継続して実施することで子供たちが自らの命を守ることの大切さに対する意識を高めていく。 ・本校は第1避難所として位置づけられており、地域の防災訓練と連携し、地域と学校をつないでいく。

令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	七宗町立神淵小学校 (校長 社本 教恵)
主な実践内容 (複数可)	① 防災：さまざまなケースにおける命を守る訓練 ② 福祉：高齢者体験 ③ 保健：歯科保健衛生活動
教育課程上の位置付け	学校行事・総合的な学習の時間・学級活動

1 活動テーマ

よくかんがえ、みんなで引き出し合い、できるまでわかるまで努力・実行しながら
「うん！？あっそうか！！」の気づきをたくさんにする神淵っ子を育成

2 主な活動内容

月	主な活動内容等
4 月	○防災：命を守る訓練 (避難経路確認・地震火災対応)
5 月	○防災：水害学習、命を守る訓練 (水害対応)・保小中合同引き渡し訓練
6 月	○キックオフの会 ○健康：歯みがき大会 (5年)・歯科指導 (4年・6年)・児童会による歯磨き集会 歯みがきキャンペーン (カラーテスト：親子 全校) 歯科医による歯科講話 (保護者)・職員を対象にした歯科講話 ○防災：命を守る訓練 (不審者対応)・救急救命法研修 (職員・児童)
7 月	○防災：着衣泳体験 ○健康：夏休み期間を活用した歯科活動
9 月	○防災：命を守る訓練 (地震対応)
10月	○福祉：福祉施設訪問 (全学年)、
11月	○福祉：福祉祭り参加 (5・6年) ○健康：歯科指導 (1年・2年・3年) 歯みがきキャンペーン (カラーテスト：1年・2年・3年)
12月	○健康：児童会提案の歯磨きキャンペーン (カラーテスト：4年・5年・6年) 冬休み期間を活用した歯科活動
1 月	○防災：命を守る訓練 (地震対応) ○福祉：高齢者体験 (5・6年)
2 月	○福祉：ありがとうの会 (地域の方を招待)
3 月	○防災：大地震災害事例を使った全校道徳・命を守る訓練 (ミサイル対応)

3 事業の成果等

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> ・命を守る訓練や防災学習を通して、まずは自分の命を守るためにどんな対処ができるのか理解し、実践する力を身に付けた。さまざまなケースの訓練を行い、対処の幅が広がった。 ・福祉体験や交流会を通して、相手のことを考えたり、気遣ったりする気持ちが高まった。 ・継続した歯科指導や活動により、健康に保つことのよさを実感し、自分のことは自分で守る素地を身に付けた。
今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちを取り巻くさまざまな環境の変化があることから、より一層、防災・福祉・健康の面から、自分たちで気づき・考え・実行する場を経験しながら、自分の命は自分で守る意識を高めていく。



令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	中津川市立付知北小学校（校長 嶋崎 博一）
主な実践内容 （複数可）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6年生『命を守る訓練』 付知北・南小学校 合同防災訓練 ・ 全校 防災に関わる講演会 ・ 4, 5年生『防災体験』（転倒防止対策、ハイゼックス米作り）
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

1 活動テーマ

私たちができる「安心で安全な学校づくり」
～防災士さんと取り組む耐震補強～

2 主な活動内容

(1) 6年生『命を守る訓練』

付知町まちづくり協議会、つけち防災士会、付知町消防団、日赤奉仕団などの協力により、「応急手当講習」「避難所内シェルター設置体験」と「意見交流会（避難所で）私たちにできること」を実施した。避難所で高齢者や乳幼児などにどのような配慮が必要かというテーマで話し合い、全体で発表を行った。



(2) 全校『防災に関わる講演会』 講師：「いのちを繋ぐGOOD LUCK」 外山 岳 様

茨木市消防本部にお勤めの外山さんをお招きし、救急救命に関わるお話や現場での様子を聞かせていただいた。

(3) 4, 5年生『防災体験』

まちづくり協議会、防災士会、消防団、日赤奉仕団などの協力により、「転倒防止対策」「消火活動」「ハイゼックス米作り」などを行った。特に4年生については、昨年までは「校内の危険箇所確認」のみであったが、今年は防災士さんと一緒に転倒防止作業を実際に行うことができた。来年度以降も継続していく。



3 事業の成果等

子供たちに付いた力	一人一人が「命」の大切さを理解するとともに、周りの人に思いやりをもって接することの大切さについて考えを深めた。
今後の方向	<p>この機会に学んだことを家庭や地域でもいかせるよう、家族で話し合うような働きかけを行う。</p> <p>耐震対策について、来年度以降も継続して取り組んでいく。</p>

令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	飛騨市立古川小学校 (校長 上口 淳)
主な実践内容(複数可)	防災活動
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間、生活科、教科(国語、社会、理科)の授業

1 活動テーマ

ふるさとに誇りをもち、自他の尊重を大切にする児童の育成
～「ふるさと&いのち」に基づいた防災教育の充実～

2 主な活動内容

月	主な活動内容等
4 月	「キックオフの会」(全校)児童が防災教育の見通しをもち、JRC指定校であることを知る。
6 月	「風水害・土砂災害についての防災教室」(全校)飛騨市防災士による講話を全校で聞く。 「引き渡し訓練」(全校)保護者や校区の保育園と連携して、素早く安全に児童を引き渡す。
7 月	「公衆電話教室」(5年生・総合)日本公衆電話会と協力し、公衆電話を使う体験を行う。 「ハザードマップ講座」(5年生・総合)防災士からハザードマップの見方について解説を聞く。
8 月	「防災マップの作成」(5年生・総合)ハザードマップをもとに、自分の通学路の危険な場所を書き込んだ防災マップを作る。
9 月	「自然災害からくらしを守る」(4年生・社会)岐阜県、飛騨市を襲った自然災害について知り、災害時の「公助・共助・自助」の仕組みを調べる。
10月	「台風の動きと天気の変化」(5年生・理科)台風による大雨や洪水で発生する災害について知り、危険な場所を予測する。
11月	「みんなで楽しく過ごすために」(6年生・国語)避難所で自分たちにできることを考える。 「地震から命を守る訓練」(全校)冬場に地震が起きた際の避難の訓練を行う。
12月	「町探検」(2年生・生活科)「こども110番の家」や公衆電話の場所を確認する。 「火事からくらしを守る」(3年生・社会)火災発生時に、協力して働く人々について知る。 「通学班集体会(夏休み中に作成した防災マップを通学班に教える会)」(全校・5年生)冬場の通学路の危険箇所について確認したり、5年生が作成した防災マップの発表を聞いたりする。
1 月	「シェイクアウト訓練」(全校)地震発生時に自分の安全を確保できるよう訓練を行う。
2 月	「市の移り変わり」(3年生・社会)古川大火について学び、安全に配慮して消火設備や道路が整備されていることを知る。 「地震後の火災から命を守る訓練」(全校)地震後に火災が起きた際の避難の訓練を行う。 「防災教育のまとめ」(全校)1年を通して学んだことや、生活に生かしたいことをまとめる。
3 月	「通学班集体会」(全校)防災の視点で通学路の危険箇所について確認する。

3 事業の成果等

子供たちに付いた力	様々な災害について理解し、防災に対する意識が高まり、自分の命を自分で守るためのスキルを高めることができた。
今後の方向	今後も、さらに地域の人材・教材を活かしながら、児童が災害に関する知識を習得し、防災についての実践力を高めていきたい。



令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	大垣市立江並中学校 (校長 中川 直香)
主な実践内容 (複数可)	① 防災活動 ② 健康安全に関する活動 ③ 奉仕や福祉に関する活動 ④ SDG s に関する活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標 No.3 すべての人に健康と福祉を ・ 目標 No.10 人や国の不平等をなくそう ・ 目標 No.11 住み続けられるまちづくり ・ 目標 No.16 平和と公正を全ての人に
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間、学級活動、道徳

1 活動テーマ

江並中人権宣言を具現化し、誰もが安心・安全に生活できる江並中

2 主な活動内容

活動名	活動内容
命を守る訓練①	火災避難訓練 避難場所、経路、点呼方法の確認
ハートフル集会Ⅰ	人権擁護委員の方の講演を聞いて、江並中人権宣言と言葉遣いとの関わりについて考え、一人一人の個性を認め、尊重する意識を高める。
命を守る訓練②	シェイクアウト訓練 身の安全の確保、避難訓練の確保について
江並クリーン活動	校風活動を行う意味を理解し、学校内で活動を広げ、校風活動の範囲を地域へも拡大する。 体育館の清掃活動
ハートフル集会Ⅱ	よさ見つけの取組を行って、異学年の生徒との交流と全体発表。
命を守る訓練③	不審者対応訓練 学校に不審者が侵入した時の対応の仕方 警察の方からの講話

3 事業の成果等

子供たちに付いた力	日常生活や学校行事を通して、人との関わりを通して人権意識を高くもち、自分たちにはどんな行動ができるかを考え、実践することができた。
今後の方向	「江並中人権宣言」や各学級の人権宣言をもとに、他者理解・生命尊重・自己実現などの人権意識の向上を図る。



令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	郡上市立大和中学校 （校長 福手 真）
主な実践内容 （複数可）	② 健康安全に関する活動 ③ 奉仕や福祉に関する活動
教育課程上の位置付け	特別活動（ 学校行事 学級活動 生徒会活動 ）

1 活動テーマ

「自分も仲間も、家族も地域もすべての人が笑顔になれる大和町のために私たちにできること」

2 主な活動内容

【地域とつながる「やまとの日」の実践】

- ・「やまとの日」の願い出しと、企画、運営の主体となる生徒地区リーダーの募集
- ・生徒の願いを学校運営協議会、公民館に伝える「生徒と語る会」の実施
- ・地域公民館運営協議会への生徒地区リーダーの定期的な参加
- ・地区ごとに公民館や自治会の協力のもと「やまとの日」を実施
- ・「やまとの日」の振り返りの実施

【「いのちの教育」の実践】

- ・自分や周りの人の「いのち」を考える「こころの時間」の定期的な実施
- ・「いのち」を慈しみ、育てる、すべてボランティア参加の「ひまわり満開 project」の実施
- ・協力していただいた地域の方々を招いての「ひまわり満開を祝う会」の実施
- ・生徒会企画「ひまわりフォトコンテスト」の実施
- ・「図書館祭り」での、「いのち」に関わる図書の読書活動の推進
- ・外部講師を招いての、「いのちの講演会」や「生き方講演会」の実施



3 事業の成果等

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが地域に支えられていることに気づき、地域の中での自分たちの役割について考え、よりよく地域とつながる方法を考え、実践することができた。 ・自他の命がかけがえのないものであることに気づき、互いに支え合い、その輝かせ方を考え、実践することができた。
今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの願っただけでなく地域のニーズを大切に、地域とつながる「やまとの日」について、その在り方を地域とともに考え、改善していく。 ・自他のかけがえのない命を支え合い、輝かせていく中で、自分見つめの時間を確保し、自己決定の機会を増やしていく。また、講演会等で生徒が「生き方」について憧れをもち、考える機会を確保していく。



令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	郡上市立高鷲中学校 (校長 河井 奈美)
主な実践内容 (複数可)	③ 奉仕や福祉に関する活動 ② 健康安全に関する活動 ⑤ SDGs に関する活動 (目標 No.11 住み続けられるまちづくりを)
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間、学級活動の時間 生徒会活動

1 活動テーマ

地域が誇る高鷲中生 ～高鷲を考え、高鷲で動く～

2 主な活動内容

- ・高鷲町(郡上市)の文化、行事、魅力等を知り、さらに魅力のあるふるさとづくりのために、自分たちにできることを考え、保護者や地域の方とともに活動することができた。

(活動例)

○花壇まめなかなプロジェクトの実施

- ・中学生が主体となり、校区の小学生にも呼びかけて校区内の道路沿いの花壇の整備や花植え活動を行った。
- ・学校運営協議会とも協力して、地域の方々を巻き込んだ活動へと発展させることができた。

○「第2回 TAKASU ふるさと DAY」の実施

- ・郡上市高鷲町地域の魅力である「郡上おどり・白鳥おどり」、「鮎の友釣り」、「郷土料理」の3つのコースから一つを選択し、それぞれの活動で地元の方を講師として招いて、活動を行った。
- ・それぞれのコースで、地域講師の方に教わりながら活動することで、郷土の実感できた。

○たかすふるさと祭りへの参加

- ・ふるさと祭りの中学生実行委員として、企画や広報活動に参加するなど、積極的に活動した。
- ・当日は、ボランティアとしてブースの手伝いをしたり、販売の実演をしたりして、地域の行事を盛り上げることができた。

3 事業の成果等

子供たちに付いた力	地域に関わる様々な活動を通して、地域の特色やその特色をどのように生かしているのか、また、それぞれの活動を支えている人の思いについて知ることができ、地域の中で自分たちにできることを考え、実行する力を高めることができた。
今後の方向	より一層、地域の実情を知り、地域の方の思いや考え方を理解して、地域に関わる活動の質を高めるとともに、将来にわたって地域や社会に貢献しようとする人材育成の一助となるよう活動を推進していく。



令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	北方町立北学園 (校長 川瀬 和弘)
主な実践内容	パラアスリート出前授業 パラスポーツ体験学習
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

1 活動テーマ

パラリンピックの選手と交流することを通して、障がい者の活躍の場があることを知り、障がい者に対する理解を深める。

2 主な活動内容

(1) パラスポーツ選手 加藤正さんによる車いすバスケのルール説明

競泳をはじめとする様々な種目でパラリンピックに出場している加藤正さんを講師としてお招きし、パラスポーツについての講話をしていただいた。また、実際に車いすバスケットボールの体験活動を行った。

児童は、片足と杖を使いながら一人で立って話をされる加藤さんの姿に、目を離せない様子であった。競技体験では、各クラスの代表児童が車いすバスケットボールに挑戦した。ボールを膝や上半身で支えながら車いすを操作する必要があり、多くの児童が操作の難しさに苦戦していた。

加藤さんの講話では、「できるかできないかではなく、やるかやらないか」という言葉を、児童が真剣に受け止めて聞く姿が見られた。また、授業前後に実施した「障がい者」に対するイメージに関するアンケートでは、授業後に「挑戦している」「がんばっている」など、前向きなイメージをもつ児童が増加していることが確認できた。



【車いすバスケットボール体験の様子】

(2) 障がい者スポーツの体験学習

各クラスの総合的な学習の時間において、ボッチャとゴールボールの体験活動を行った。児童は、初めて見聞きする障がい者スポーツの用具やルールについて、興味をもって説明を聞いていた。

実際に競技を体験すると、ボッチャでは投げる力加減の難しさを感じながらも、その点を楽しみ、進んで取り組もうとする児童の姿が見られた。ゴールボールでは、アイマスクを着用し、音を頼りにボールを探す様子が見られ、ゴールが決まった際には、見ている児童から歓声上がる場面もあった。

2つの競技を実際に体験することで、児童は障がい者スポーツを「特別なもの」として捉えるのではなく、工夫や努力によって誰もが楽しめるスポーツであることに気付き始めていた。また、実際に体を動かして体験することで、競技の難しさだけでなく、達成感や楽しさを感じ取る姿が多く見られた。



【ボッチャ体験の様子】



【ゴールボール体験の様子】

3 事業の成果等

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 挑戦することの大切さを考えることができた。 ・ 障がいの有無にかかわらず、自分の課題に向かって挑戦していきたいと決意を新たにすることができた。 ・ 実際の体験を通して、障がい者についてより積極的に理解し寄り添おうとする姿勢が育った。
今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「障がい者スポーツ」だけでなく、「福祉」に幅を広げて調べ、グループ発表を行う。調べ学習を通して身の回りにある福祉に目を向け、誰に対しても思いやりをもって接する心を育んでいきたい。

令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	大垣市立上石津学園 (校長 神谷 憲一)
主な実践内容 (複数可)	① 防災活動
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

1 活動テーマ

- 防災活動～一人でも多くの命を守るために私たちにできることは何か～

2 主な活動内容

本校では、総合的な学習の時間を核として、探究的な学習活動を充実させ、主体的に判断し、よりよく問題を解決する力を育成している。各学年で総合的な学習のテーマを設定し、地域人材や地域素材の活用その他、企業や専門家等と連携して学習を進めている。

【6年生】防災～一人でも多くの命を守るために私たちにできることは何か～

様々な困難が降りかかっている今、地震災害は最も身近な自然災害であり、いつ起こるか分からない。一人でも多くの命を守り抜くために主体的に行動していく態度をもち続け、自己の生き方にもつなげてほしいという願いからテーマを設定した。

まずは図書資料やインターネットを使って過去の震災について調べ、震災の恐ろしさ、防災の必要性を学んだ。その後、大型商業施設へ赴き、店舗や来店客の防災対策に対する意識調査、実態調査(写真①)を行った。すると、店舗が防災に対して目に見えないところで様々な対策をしていることに気付くとともに、各家庭においては、危機感があるものの、十分な対策ができていないことも分かった。防災対策の重要性を伝えるためにどうしたらよいかを考える中で、児童の中から実際に大きな地震を経験した方や専門家の話、他の企業ではどのような対策をしているか聞きたいという願いが出てきた。

写真②は、実際に東日本大震災経験者の講話の様子である。震災の恐ろしさを実感したり、防災対策の必要性をより認識したりすることができた。その他にも防災についての専門家を講師に招き、(写真③)「自宅の地震対策」「学校内での地震対策」を行い、危険性や地震対策について理解を深めた。

この学習の中で、「一人でも多くの命を守る」ために、どのような活動をするべきか考え、大型商業施設での啓発活動を行った。専門家や店舗担当者に意見を聞きながら、人々の防災意識を高めるためには、どのような啓発活動にするか吟味して内容を考えていった。



① 大型商業施設での調査活動



② 震災経験者の講話



③ 防災専門家の講話

3 事業の成果等

子供たちに付いた力	探究的な学びを身に付け、主体的に考え、よりよく問題を解決しようとする力
今後の方向	探究的な学び方を身に付ける指導を継続的に行い、習得した学びを総合的な学習の時間をはじめとする教科を越えた様々な場面で発揮する「探究的に生きる力」を育成する。

令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	岐阜県立池田高等学校 (校長 鈴木 彰)
主な実践内容 (複数可)	① 防災活動 ② 奉仕や福祉に関する活動 ③ SDGsに関する活動(目標 No. 11 住み続けられるまちづくりを)
教育課程上の位置付け	学校行事・総合的な探究の時間

1 活動テーマ

地域をつなぐ、地域防災の拠点としての池田高校を目指す

2 主な活動内容

- ・ キックオフの会として、新入生向け学年集会で本校がJRCに加盟していることや、赤十字等について学んだ。また、協働について学ぶため、グループごとにチーム対抗のチャレンジ課題を行った。
- ・ DIG 訓練 (DIG シートの作成) により、自宅および校舎内の危険の把握とその対策について学んだ。
- ・ サンビレッジ国際医療福祉専門学校講師の講話にて、各自の認知特性に合わせた生活について学んだ。
- ・ 炊き出し体験 (ハイゼックスを用いた炊飯と調理活動) をとおして、避難所運営について学ぶとともに仲間と協働する姿勢を学んだ。
- ・ 上記炊き出し体験時に、JRCや池田町総務課の災害担当の方を招聘し、非常時の対応についての話を聞き、屋外での非常用電源装置による投光や、非常用トイレの設営体験を行った。
- ・ 本校学校設定科目「地球環境防災」で、大垣工業高校の生徒およびライン生コン株式会社 (工業高校で専門技術を教えるなど地域貢献活動に取り組んでいる) に専門的な技術指導を受けながら協働してかまどベンチ (災害時にかまどとして利用できるベンチ) を制作した。
- ・ 池田町防災士連絡協議会主催の「学生と共に炊き出し大訓練」に参加し、テントの設営や炊き出し、および配膳の中心となって従事し、イベントの成功に大きな貢献をした。
- ・ 防災講話として、清流の国ぎふ 女性防災士会 会長 伊藤三枝子氏をお招きし、避難の多様性、避難所で身を守る方法、また高校生が災害時に果たすべき役割について講演をしていただいた。
- ・ 飛散防止フィルムなど防災グッズを実際に使って、災害前への備えについて体験的に学んだ。

3 事業の成果等

子供たちに付いた力	本校は地域の避難所として指定されており、有事の際の避難所設営において生徒が地域防災のリーダーとして果たす役割は大きい。炊き出し訓練では、自分たちで火のおこしかたや調理方法を探究しながら取り組むことで、失敗を恐れず挑戦する姿勢が育まれた。また、互いの失敗を受け入れ支え合う雰囲気生まれ、居心地の良い集団づくりにつながり、学校生活への適応力も高まった。さらに、避難所生活を想定して行うことにより、地域住民をはじめとした他者の安全のために主体的に行動する意識が高まったほか、非常用トイレの設営などの体験を通して、避難所生活を具体的にイメージしながら防災への探究心を深める素地を築くことができた。さらに、実際の避難所運営には衣食住の設備が不可欠であることを学び、その一環としてかまどベンチづくりなどの実践活動にも取り組んだ。地元の工業高校の生徒にも協力を仰ぎ、ともに作業することで、避難所生活を自分事として捉えると同時に、その設営の主体として自分たちに何ができるのかを考えるきっかけとなった。
今後の方向	非常変災時における避難所運営の在り方についての議論が高まる中、地域防災の担い手として高校生に寄せられる期待はますます大きくなっている。本校では今後も、新入生を対象に野外での炊き出し訓練や避難所設営訓練を新入生行事として継続し、基礎的な防災力と協働する姿勢を育てていく。さらに来年度は、今回作成したかまどベンチを活用し、生徒自身が企画する「実際に避難所を設営し生活してみる」体験型イベントの実施を予定している。生徒が主体となって避難所運営を再現することで、現場で生じる課題に自ら気づき、その改善策を考え、実行につなげる探究活動を行う。避難所内の動線、プライバシー確保、炊き出しの効率性など、実践の中で見えてくる多様な課題を「自分事」として捉え、地域の一員として主体的に改善策を提案する力の育成を目指す。



令和7年度 JRC未来応援プロジェクト活動報告書

学 校 名	岐阜県立飛騨高山高等学校 岡本キャンパス (校長 神出 建太郎)
主な実践内容(複数可)	⑤ SDGs に関する活動
教育課程上の位置付け	総合的な探究の時間

1 活動テーマ

「持続可能な高山市を目指して～生まれ育った高山市を次の世代にも継承するために～」

2 主な活動内容

▶活動の目的:(SDGs × 高山市)

SDGs の視点から高山市を見直し、地域の魅力と課題を探る探究活動に取り組んだ。高校生として「自分たちにできること」を考えて行動し、次世代へ高山市を継承する姿勢を育んだ。SDGs を通して見過ごしがちな課題が明確になり、新たな地域の魅力にも気づくことができた。また、地域探究講話では、専門性の高い講師から「問い」と「仮説」の立て方、SWOT 分析の方法、地域創生やまちづくりの視点、観光資源の活用の意義などを学んだ。講話を重ねる中で、地域課題を論理的に整理し、自分たちの視点で解決策を考える力が向上し、探究活動の活性化につながった。

▶成果発表:SDGs の視点から地域に提案

①教育②子育て③高齢者④防災・環境⑤外国人・観光について、各グループが活動成果を報告し、そのうち2グループは「学習成果発表会」で全校生徒と来賓の前で発表を行った。課題解決には時間がかかるものも多いが、今後も地域の未来をより良くするために継続して取り組んでいきたい。

【①:高山市の防災(SDGs11・SDGs13)】

活動内容:高山市の防災の現状調査、過去の災害事例の分析
 役所へのインタビュー、防災グッズ・防災食品の体験・展示
 ⇒ 災害に強いまちづくりと気候変動への適応を意識し、
 防災意識向上に取り組んだ。



▶防災グッズの実践報告

【②:高山市の子育て(SDGs3・SDGs5・SDGs10)】

活動内容:保護者へのアンケート調査
 「ひだっ子すくすく応援隊 子育てマップ」の作成
 (高山市内の子育て支援施設をまとめたもの)
 ⇒ 子育て支援の情報格差をなくし、
 安心して育てられる環境づくりを目指した。

▶新聞紙スリッパ



3 事業の成果等

子供たちに付いた力	課題発見力:地域課題を SDGs の視点で見つける力 分析力:調査・データを根拠に考える力 協働力:仲間や地域と協力し合う力 創造力:新しい解決策や企画を生み出す力 発信力:成果をわかりやすく伝える力 主体性:地域の未来に参画する意識、ふるさとを大切に思う気持ち
今後の方向	3年生を中心に活動を進めてきたが、1・2年生も講演や発表に参加し、知識と理解を深めてきた。今後もこの活動を引き継ぎ、新たな視点から高山市を見つめられるようにしていく。高校生の取り組みが高山市の未来につながるよう、これからも後輩へ継承していく。